

# 幼兒教育

第一二八卷

大正九年八月十五日發行

## 我國の現狀と幼兒教育問題

文部省事務官 乘 杉 嘉 壽

歐米では、幼兒に對する教育については、他の一般の兒童教育の完備とともに、相當に研究もせられ、施設もせられて居ることは、衆知の事實であるが、今回的世界戰亂の結果、歐米における幼兒教育の問題は、戰後教育の諸問題中、最も重要な、また、意味深き問題となつたのである。といふのは、單に教育學上の見地から、教育はその兒童の心身の發達に應じてなるべく早くこれを授ける方が有效で且適切であるといふだけの單純な理由ではないのであつて、歐米における參戰諸國にとつては、幼兒教育の問題はもはや理論上のことではなくて、目下させまつた事實問題となつてゐるのである。そは、これら參戰諸國における現在の幼兒は、その精神上に於ても身體上に於ても、戰争より直接にまた間接にうけた結

果影響が實に著しくあらはれて居ることである。獨逸はいふ迄もなく、英國でも佛國でも過去五箇年間の戰爭によつて、その一面には、人生の花といはる壯丁の大多數が或は戰死し或は負傷し、ために、現在及將來における國運の發展に與るべき有力なる國民が、數に於ても質に於ても大なる損害を蒙つたるものに、次代の國民たるべき、子供の出產率が大いに減少したといふことは事實である。更にその生れたる幼兒が一戰時中に於て一種特別なる状況にあるので、大戰にともなつて精神上にも物質上にも大なる打撃を蒙つた人々の間に生れた子供は、やはりその影響をうけてゐるのである。特に著しきものを戰爭兒(War infant)となづけてゐる。即ち非常に神經質であるとか、或は意志薄弱なる子供が生れ、

又身體の方面では特種な不具者、また不具とまでは行かずとも、發育不充分なものが多數生れ出たのであつて、これは戰時中、いろいろの悲劇からおこる親の悲嘆憂慮が子供の精神及身體に影響するところの大なりしたためで、無理もないことである。

また、食物及衣服の大缺乏といふことも、發育盛りの幼兒にとつてどれ位、わるい影響を與へたかわからない。そこで、これら戰爭兒の教育如何といふことが國家の將來に重大な關係を及ぼすので、各國とも、これには力をつくして居るが、ことに英國は他國に率先して、夙に、この問題の解決に焦慮研究の上、既に一九一八年の新教育法に於て、Nursery School (幼兒保育學校) の制度を確立して、全國各地における満二歳より、満五歳にいたる迄の幼兒に対して、その父兄が、家計の關係上、充分に養育の任務をはたすことの出來ないものに對しては、國家及地方公共團體が協力して、洩れなくかかる幼兒を收容し、一面には、これら幼兒の養育に力をつくすとともに、また、相當の教育を加ふべき立案をなし、今やこれが實行に進みつゝあるやうな次第である。

また、獨逸に於ても、教育界その他慈善事業に關

係ある人々が、戰時中ならびに戰後における幼兒の保育問題について、非常に熱心に研究し、これが救濟と保護とに盡力して居ることについて、最近各種の報告に接したのであるが、しかし、未だ、英國のごとく、統一して、系統的に、これら不幸なる幼兒の保護問題を取扱ふ手段が確立してはおらぬようである。たゞ自國の幼兒保育に對する戰時及戰後の窮状を廣く天下の有識者に訴へて何等かの解決を見ることがねがつてゐるようである。

その他、フランスに於ても同様であつて、ことに米國に於ては幼兒保育の問題については、一般に民間有志者の盡力のほかに政府としても、特に勞働省に於て兒童局を設立して該問題に關する諸方面的調査研究は勿論のことこれが施設を督勵して居るばかりでなく、既に最近に於て幼兒保護問題について世界的の會議をワシントンに開催して、ひとり自國の教育者の注意を喚起したばかりでなく、諸外國、ことに我國に對しても幾多のよき参考の材料を提供したのである。

翻つて我國の現狀は如何にといふに、元來我が國

では、一面には家庭制度をもつて社會組織、國家制度の基礎としてをつて、各家庭に於て、幼兒に對する父兄の態度は外國に比して寧ろ餘程重要視してゐるのであるが、これを一言にしてあらはせば、我國の父兄は、幼兒に對しては何者をも犠牲にせんとする情愛の深きものがあるといふことであるが、さて、しかば、幼兒保育に對する理智の方面は如何といふに、遺憾ながら、これは甚だ不充分であるといはねばならない。このことは幼兒に對する教育の現状を見れば明瞭であつて、我國における幼稚園の發達が甚だ遅々として進まぬこともその一つであるが、中流以下の階級の幼兒を保育する施設については、政府も公共團體も、これに著手することの至つて少なきをみて、我國が該問題に對してこれまで熱心であつたとはいはれない。今少し、識者が世の蒙をひらいて率先してこの事業の甚だ大切なことを示さなければならぬと思ふ。これは、單純なる教育問題としても勿論大切であるが、國の現在及將來について最も考慮を要すべき社會的施設の一端として、も、甚だ重要な地位をしめるものであることは、今更説明を要しない。

勿論、我國は、前述の英、佛、獨、乃至アメリカの如き、戰爭兒(War infant)を有せぬのであるけれども、しかし、今日の家族制度による家庭だけに、幼兒教育を一任してかへりみないとはいふことが、やがて、國家の存立の上に、將來重要な意義を齎すものと考へなければならない。

我國が家庭本位なるが故に、しかしてその家庭そのものが、教育上望ましからぬこと多き現状に於ては、一層、この幼兒保育の問題について、政府ならばに公共團體が注意を怠つてはならぬのみならず、この際積極的に施設するところがあらねばならぬ。ことに、下層階級における幼兒の保育に於ては、たまくその施設を行ふものも、甚だあやまれる前提のもとにこれを行ふものがあるかと思はれる。これは單に幼兒に對する場合のみならず、一般に下層民に對する政策の上に、都會も地方も、ともに一つの誤解をもつてゐると思ふ。即ち、近年物價騰貴にともなひ經濟上の變動につれて各種の慈善事業が行はれたのであるが、どうも慈善とか救濟とかいへば、すぐに物質的の供給を先にする傾向がある。もとより、物資の供給は必要であるが、同時にまた

精神的教養の價値の甚だ大なることを忘れてはならぬ。即ち、今日の貧困者乃至労働者の救濟問題は物資の補助乃至給與よりも、むしろ彼等の精神上の修養の機會を與へることを主眼とせねばならぬ。救濟慈善の要は、寧ろパンを與ふるよりも、彼等に精神上の慰安を與ふる方が大切であると思ふ。よし、下層民としても、今日の状態では、働けば必ずパンを得られる。しかも、そのパンは下級の官吏や教員にも劣らぬ程度のもので、其生活を支持するだけの收入があるものである。しかるに、これにともなふ精神教育の機會を與へざるがために、折角の救濟も慈善も效果少く、たゞいたづらに、野獸に食を與ふると同じことで、結局、飼ひ犬に手をかまれるの恐れなきにあらざる有様である。この見地から見ても少くとも將來の我國の幼児保育の問題については、充分考慮して、官私ともに、大いにこの問題のために努力せねばならぬと思ふのである。況んや、世間一般が、幼児保育に對して、甚だ冷淡である我が國の現状を思ふときに、誠に寒心にたえぬ次第である。

將來、この問題については、なるべく、世の識者爲政家の注意を喚起し、且地方を督勵して、この方

面に力をそゝぐようにしたい、最近、我が文部省に於ても、社會教育施設の一端として、一般に、幼兒保育、ことに、教育的託児所の施設を督勵したい考へをもつて、今回、各府縣にをかれたる社會教育主事とそれぐ協議して、この事業の擴張普及をはかるよう、衷心から希望してゐる次第である。

(談話・未校閱、文責在筆記者)

### ○文部省保母講習會

既記のことく、本年度夏期講習會は、七月二十六日から八月四日まで、東京女子高等師範學校講堂に於て開催されました。本年は講習を受けた方々は百餘名に達しました。毎日午前七時から正午まで連日のあつさにも拘らず、一同熱心に聽講されました。

### ○日本幼稚園協會遊戯講習會

土川五郎先生の遊戯の講習會は七月二十六日から八月二日迄毎日午後一時から五時過ぎ迄東京女高師講堂で開かれました。先生のいつもかはらの熱心あふれた教授振りには、講習員一同、午前の疲勞も、眞晝の暑さも忘れて、ピアノの音に醉はされながら、皆子供にかへつて舞踊しました。「少し休んで拜見しませう」と腰下してゐた人達も、いつのまにか我をわすれて遊戯のグループの中にはいつてゐるのでした。豫定以外の日をまで、さしあま御旅行のその時まで、先生は割愛して一同のためにおつくし下さいましたことは、感謝にたえません。